

2021 年 7 月社長会見

2021年7月14日

1. 営業・輸送概況
2. 新幹線の安全教育設備の充実
3. 鉄道事業用の光ファイバネットワークを活用した新規事業への挑戦
4. 地域に根差した駅ソト立地のショッピングセンター開発

詳細

1. 営業・輸送概況

【運輸取扱収入（速報値）】

収入ですが、対前々年比で6月は49.8%、7月は7日までで60.3%です。

	前年同日比			
	収入計	近距離券	中長距離券	定期券
6月	95.3% (49.8%)	100.7% (57.3%)	100.7% (36.3%)	84.7% (95.8%)
7月(7/1~7)	109.1% (60.3%)	105.1% (68.3%)	107.0% (43.5%)	113.7% (94.0%)

※実績は直営の速報値。駅などでの取扱高(消費税を含む)を示すものであり、旅行会社での発売分などを除きます。
 ※ () 内は、2019年10月からの消費税増税分を除いた前々年同日比。

【新幹線・在来線特急・近畿圏のご利用状況（速報値）】

ご利用については、山陽新幹線は対前々年比で6月は32%、7月は43%、近畿圏では6月は62%、7月は72%です。

6月から7月初旬にかけては、緊急事態宣言の解除や新型コロナウイルスのワクチン接種の進捗などもあり、緩やかな改善傾向がみられました。

一方、感染第5波への警戒が高まるなか、7月12日から東京都で再度緊急事態宣言が発令され、大阪府でも、まん延防止等重点措置が延長されるなど楽観できる状況ではありません。

引き続き、感染防止対策やワクチン接種を進め、お客様に安心してご利用いただける安全な輸送サービスの提供に努めていきます。

	前年同日比			
	山陽新幹線	北陸新幹線	在来線特急	近畿圏
6月	100% (32%)	125% (29%)	92% (24%)	100% (62%)
7月(7/1~7)	106% (43%)	123% (39%)	88% (31%)	104% (72%)

※実績は速報値。近畿圏は近距離券発売実績の前年同日比。

※（ ）内は前々年同日比。

2.新幹線の安全教育設備の充実

【新たな教育設備の整備】

2017年12月、のぞみ34号の台車に亀裂が発生した「重大インシデント」を受け、「安全が確認できないときは迷わず列車を止める、作業を止める」というトップメッセージの発信と安全性向上に向けたハード・ソフトの両面の取り組みを推進してきました。

そしてこの度、これらの取り組みの更なる定着と進化、風化防止を図ることを目的に、教育設備を整備しました。

亀裂を再現した原寸大の台車模型やVRによる再現動画など、「見て」「聞いて」「感じて」学ぶことができる教材としています。

これらの教材を活用した教育は、6月から博多総合車両所において開始し、今後は順次、対象を拡大していく予定です。

・2017年12月、のぞみ34号の台車に亀裂が発生した「重大インシデント」を受け、「安全が確認できないときは迷わず列車を止める、作業を止める」というトップメッセージの発信と、安全性向上に向けたハード・ソフトの両面の取り組みを推進

・今回、これらの取り組みの更なる定着と進化、風化防止を図ることを目的に、教育設備を整備

○「見て」「聞いて」「感じて」学ぶ教材



原寸大再現模型



VRによる再現動画

■場所：博多総合車両所

■教育開始：2021年6月

【将来にわたる鉄道の安全の実現に向けた教育】

将来にわたり鉄道の安全を実現していくためには、「組織全体で安全を確保する仕組み」のもとで、「社員一人ひとりの安全考動」を積み重ねることを通じて、「安全最優先の風土」を構築していくことが重要だと考えています。

今回の教育を受講した社員は、リアルな模型などを目の当たりにすることで、改めて事象の重大性をより強く心に刻んだようです。

これらを通じ、社員一人ひとりが能動的に学び、リスクを具体的に考え、対策や仕組みの背景をより体系的に理解するとともに、将来へ継承していくことで、継続的な安全性の向上を実現していきます。

○「組織全体で安全を確保する仕組み」のもとで、「一人ひとりの安全考動」を通じて、「安全最優先の風土」を構築していく。



能動的な気づきと学び



事象の背景を体系的に理解



一人ひとりの安全考動の実践へ

＜受講した社員の声（抜粋）＞

- ・「実物大の台車模型を目の当たりにして事象を想像し、背筋が凍る思いがした」
- ・「自分だったらどうしたか、どうすべきかを改めて考えることができた」
- ・「模型によりどんなメカニズムで異臭・異音が発生したのか、より理解が進んだ」

○「見て」「聞いて」「感じて」能動的に学ぶことで、リスクを具体的に考え、対策や仕組みの背景をより体系的に理解・継承し、継続的な安全性の向上を実現していく。

3. 鉄道事業用の光ファイバネットワークを活用した新規事業への挑戦

今回の事業展開に至る社会的な環境変化や背景についてです。

国内のデータ通信量は、情報通信サービスや各種コンテンツの高品質化、多様化に伴い年々増大している状況です。

加えて、新型コロナ禍を受けて、テレワークやオンライン会議等の浸透により、データ通信量は更に増大しており、今後、通信インフラの強靱化が社会的な課題になっていくと考えています。

一方、当社は山陽新幹線やアーバンネットワークを中心とした在来線の沿線において、運行管理システム等の鉄道事業用に光ファイバケーブルを敷設しています。

このような背景を踏まえ、「ＪＲ西日本グループ中期経営計画２０２２」に掲げる「既存の事業資産を新たな用途で活用した事業展開への挑戦」として、今回、光ファイバネットワークの一部を開放し、情報通信事業を展開していきます。

◆ 国内データ通信量の動向

- ・ 情報通信サービスの高品質化、多様化に伴い国内のデータ通信量が年々増大
- ・ 通信インフラの強靱化が今後の社会的な課題



◆ 光ファイバケーブルの敷設状況

- ・ 山陽新幹線やアーバンネットワークを中心とした在来線の沿線に、鉄道事業用（運行管理システム 等）として光ファイバケーブルを敷設している

＜JR西日本グループ中期経営計画2022＞見直し

既存の事業資産を新たな用途で活用した事業展開への挑戦

⇒当社の保有する**鉄道事業用の光ファイバネットワークを開放**し、社会変化に対応した新たな事業を開始する

【情報通信事業の参入】

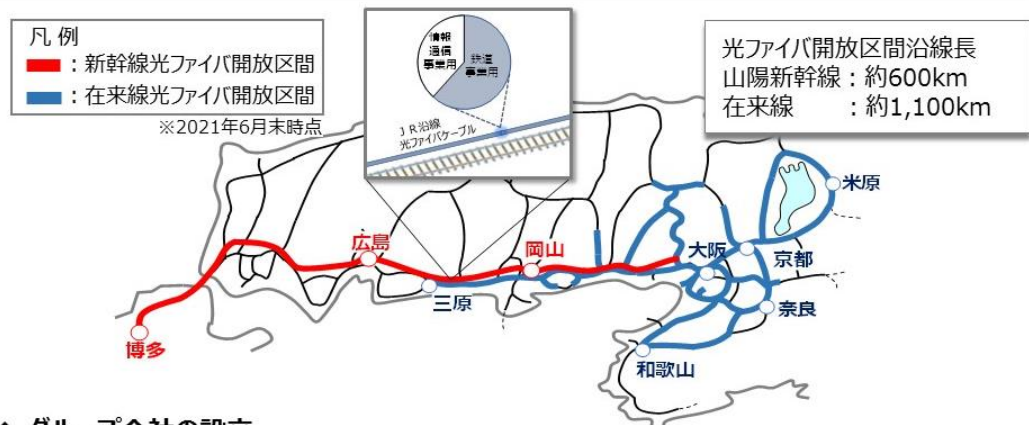
この事業の特徴として、当社は京阪神地区から山陽新幹線を通じて中国地方・福岡まで繋がる広大なエリアをカバーしており、鉄道事業者における光ファイバネットワークを活用した事業展開では最大規模となります。

もう一つの特徴として、鉄道事業を支える「高い品質」「高い安定性」「高い信頼性」を確保していることが挙げられます。

本事業を推進するにあたり、7月1日に「JR西日本光ネットワーク株式会社」を設立し、専門的かつ機動的に事業運営を行っていくこととしました。

◆ 特徴

- ・ 国内鉄道事業者における光ファイバネットワークの開放では最大規模
- ・ 新幹線を含む鉄道輸送を支える「高い品質」「高い安定性」「高い信頼性」



◆ グループ会社の設立

- ・ 7月1日に「JR西日本光ネットワーク株式会社」（大阪府吹田市）設立
- ・ 情報通信事業（光ファイバ芯線賃貸や高速データ通信サービス事業）をスタート
- ・ 当社100%出資子会社



【今後の事業展開】

今年秋より、光ファイバ「芯線賃貸サービス」を本格的に開始します。

さらに、来年春より、「高速データ通信サービス」を開始し、サービスの拡充を図っていきます。

併せて、当社の光ファイバネットワークと西日本エリア内の主要データセンターを接続し、拡大していく通信需要に対応した付加価値を高めていきます。

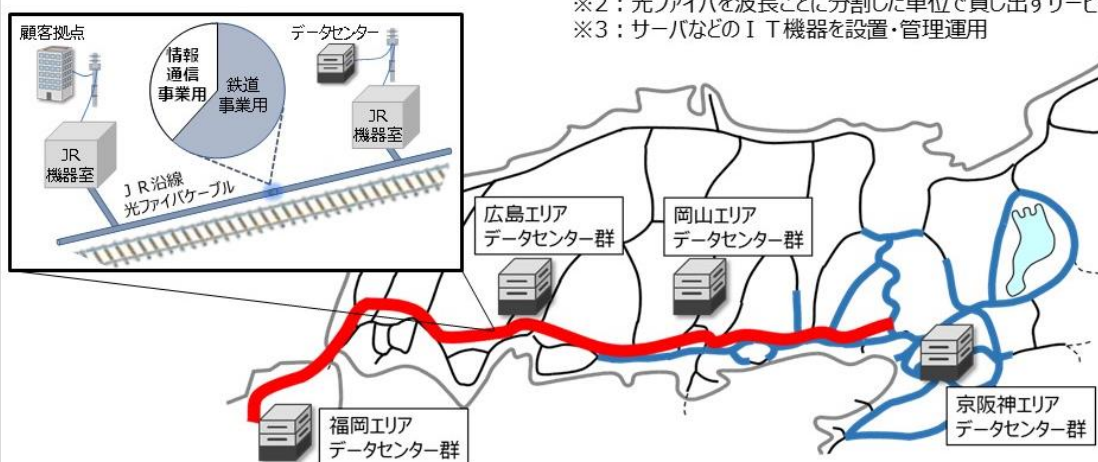
情報通信分野に関する様々な社会課題の解決にインフラ面でお応えしていくとともに、本事業を成長させていきたいと考えています。

- ・ 今秋より、本格的に光ファイバ「芯線賃貸サービス」※1を開始
- ・ 2022年春より、「高速データ通信サービス」※2も開始予定
- ・ 西日本エリアの主要データセンター※3への接続
- ・ 情報通信分野に関する様々な社会的課題の解決にインフラ面で貢献

※1：光ファイバを芯線単位で貸し出すサービス

※2：光ファイバを波長ごとに分割した単位で貸し出すサービス

※3：サーバなどのIT機器を設置・管理運用



阪急阪神ホールディングスグループの阪神ケーブルエンジニアリング(株)と協業し、相互のネットワーク網を補完

4. 地域に根差した駅ソト立地のショッピングセンター開発

【JR西日本グループ中期経営計画2022 創造事業の事業戦略】

SC事業の多くは駅ビルや高架下、地下街で展開していますが、市中においても、「吹田グリーンプレイス」、「甲子園口グリーンプレイス」を開業してきました。

いずれもコンセプトは、緑あふれる開放的な空間が特徴のオープンモールで、食料品や日用品など、地域の皆様のデイリーニーズにお応えする店舗を充実させています。

昨今のコロナ禍においても、3密回避や生活圏への消費シフトなど、価値観・行動様式の変化を背景に、コロナ前を上回るご利用を頂いています。

ショッピングセンター（SC）

ライフサポート型SCの事業モデル確立と駅リトへの展開

【第1弾】

- 吹田グリーンプレイス
開業日：2016年6月
所在地：大阪府吹田市(JR吹田駅徒歩約8分)
店舗数：27
売上：約44億円/年（対前年102.8%）



【第2弾】

- 甲子園口グリーンプレイス
開業日：2019年11月
所在地：兵庫県西宮市(甲子園口駅徒歩約10分)
店舗数：10
売上：約7億円/年



コロナ禍での3密回避や生活圏への消費シフトなど、
価値観・行動様式の変化を背景に、コロナ前を上回る売上げ

【「夙川グリーンプレイス」の開発】

この度、市中展開第三弾として、兵庫県西宮市において、新たに「夙川グリーンプレイス」を開業します。
周辺環境と調和したオープンモールとし、樹木や芝生など緑豊かな広場の中を歩いて回遊できる施設となっています。

こだわりの店舗を揃えた上質なライフサポート型のショッピングセンターとして、快適な暮らしをサポートするとともに、街のブランド向上にも寄与していきます。



※画像はイメージ

- ・店舗のファサード（外観）を木で揃え、**統一的なコンセプト**に基づき整備
- ・周辺環境と調和したオープンモールとし、**芝生等緑豊かな広場の中**を回遊できる

- 所在地
兵庫県西宮市大谷町
※当社社宅跡地等
JRさくら夙川駅徒歩15分

- 概要
敷地面積：9,740㎡
建物面積：3,460㎡（6棟）

- 運営主体
JR西日本アーバン開発（株）

- 開業日
2021年9月3日

- 店舗数
14（スーパー、飲食店、カフェ、クリニック等）

- 売上高目標
14億円/年

こだわりの店舗を揃えた上質なライフサポート型のショッピングセンターとして、地域の皆様の快適な暮らしをサポートするとともに、街のブランド向上にも寄与する、地域に根差した施設を目指す

【地域に根差した新たな取り組み（SDGsに向けた取り組み等）】

地域に根差した新たな取り組みとして、今回、西宮市と「災害時応援協定」を締結しました。

この協定に基づき、「夙川グリーンプレイス」の太陽光発電と蓄電池を活用し、災害時には地域の方々に「電気の供給」と「広場の提供」を行い、防災機能を果たしていきます。

SDGsの「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、「住み続けられるまちづくりを」など、地域の皆様の安全・安心に寄与するとともに、地域の価値向上に貢献していきたいと考えています。

■西宮市・JR西日本アーバン開発「災害時応援協定」締結



・「夙川グリーンプレイス」の太陽光発電と蓄電池を活用し、災害時に「電気の供給」と「広場の提供」を実施

⇒ **SDGs「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、「住み続けられるまちづくりを」**

に向け、地域の皆様の安全・安心に寄与する



締結の様子

※画像はイメージ

■地域の皆様に滞在いただく仕組みづくり



遊具を配した人工芝広場やペットスポットを設置



リモートワーク等でも使えるスペース